

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市歴史民俗資料館
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年4月1日～34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 35,643人 (前年度比105%) 平成28年度 33,955人 平成27年度 37,566人 平成26年度 36,435人</p> <p>《事業》 展示事業：常設展、特別展「Winter Life in Sendai」、企画展(2回)、季節展示(4回) 資料の収集・整理・保管事業、調査研究事業、普及啓発事業(講座・体験学習等)</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 65,879千円 (67,976千円) ()は前年度決算額</p> <p>・ その他市が負担した費用 2,980千円 (681千円)</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 1,260千円 (1,176千円)</p> <p>・ その他収入 387千円 (459千円)</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 平成29年12月に施設利用者アンケートを実施。 また、各企画展毎にアンケートを実施しホームページ上で紹介。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、職員がそれを十分理解しているとともに、歴史民俗資料の積極的な収集・保管、調査・研究、展示事業や講座等の普及啓発事業等を通して本市の歴史文化の保護向上等の施設目的を十分達成している。	S
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館状況、指定管理料の執行状況及び個人情報の保護も適正である。事故・災害等の発生時の対応体制は、研修や震災後の事例集の作成などにより職員間での共通理解が図られている。	S
III 施設・設備の維持管理	施設そのものが仙台市指定有形文化財であることを踏まえた適切な維持管理がなされており、安全性を確保した上で利用者が快適に利用できる状態が保持されている。また、仙台市環境行動計画に則り省エネ・廃棄物の減量・リサイクルに努めている。	S
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付状況は適切であり、職員への教育・研修を随時行っている。また、ホームページやパンフレット等による利用情報の積極的な提供や利用者アンケートも実施している。苦情については随時適切に対応しており、アンケートで寄せられた意見についてもホームページ上で適宜公開のうえ回答している。	S
V 施設固有の基準	協定書や仕様書等に基づき適切に施設を管理するとともに、事業計画書どおりに適切に事業を運営している。また榴岡公園を利用して行うイベントには多くの近隣住民やリピーターが訪れており、施設の活動が地域社会や市民に普及し、定着している。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	地域住民への対応	近隣の学校や町内会への出前講座及び近隣30町内会への「歴史民俗資料館だより」の配布等により、施設や職員が積極的に交流を行っている。地域住民にとっても、自らの地域の施設であるという意識が広がるとともに、施設利用者層の拡大と文化財の保護継承についての普及啓発に大きな役割を果たしている。
2	サポーターの養成	展示解説や体験活動・イベント等の補助にとどまらず資料館の運営と普及に寄与することのできるサポーターを養成するための講座・研修会を継続的に開催している。この活動によって市民の生涯学習活動の充実とともに、文化財保護継承意識の啓発に大きく貢献している。学校利用や体験活動に参加することの多い小学生からも、心温まる対応であったとの意見が寄せられるなど好評である。
3	多様なイベントの開催	展覧会に関連した展示解説や体験活動等のほか、バックヤードツアーや遺跡見学といったイベントを多数実施している。その他にも、榴ヶ岡公園の立地を活かした民俗芸能や伝統技術に関する野外イベント等を開催し、多くの市民に親しまれる活動を展開し定着させている。
加点評価		A

四 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
<p>施設の管理運営に当たっては、施設所管課と協議を行いながら、協定書に基づき適切に行った。施設管理については、前年度に引き続き、光熱費の節減等を図るため、蛍光灯の点灯数の削減や、展示室のスポットライトのLED化を行った。また、事務室などにおいては空調の温度ムラを無くすためサーキュレーターを取り入れ適切な温度調整に努めた。</p> <p>普及啓発事業ではサポーター養成講座を1回行い、8名が参加した。またサポーター研修会を開催し、サポーター23名の活動の充実化を図った。市内中学校2校7人の職場体験、4大学11人の博物館実習、教職員5名の職場体験研修を受け入れた。</p> <p>当館入館者数は、35,643人と前年度より1,688名が増加した。これは野外のゴールデンウィーク・イベントやれきみん秋祭りが市民の皆様に着してきたことや、企画展や特別展の内容の充実が好調の要因と考えられる。その他の事業では、過去最高だった昨年度とほぼ同じ入館者数を維持することができた。市内小学校(124校)の来館校数は97校で入館者は6,877人であった。その他、市内外の小中学校数を加えると162校8,116人となった。体験学習は今年度は453回であった。また新学習指導要領で資料館、博物館の見学学習や体験学習が重視されたことや、当館が学校教育との博学連携をより一層推進するための取組として、ホームページの充実化及び歴史民俗資料館だよりを、市内全小・中学校に配布し、学習に必要な情報・資料の提供など、継続して積極的に実施してきた。</p> <p>展示事業については、特別展「Winter Life in Sendai」を初め、年間3回の特別展・企画展を実施し、展示図録を2種類発行した。また、「花見」「七夕」などの季節展を年間通して4回実施するなど、来館者が楽しめる環境を整えることに努めた。さらに、被災地関連展示「荒浜・六郷・七郷・高砂と周辺地域のくらし」を実施した。これは一日も早い復興を果たしたいと願っている人々の災害復興に向けた街づくりに当館としても資していきたいと考え実施したもので、今後とも復興に向けた被災地関連事業については積極的に継続して取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>調査研究活動の成果としては、調査報告書第36集をまとめ、さらに資料整理の成果を資料集第16冊「絵葉書でみる仙台3」として発行し、市民の方々の学習及び研究に役立てることができた。</p> <p>資料の収集・整理・保管にかかわる事業としては、前年を上回る資料を収集し、その件数は79件・5,150点、登録資料の総点数は89,156点となった。また、資料の貸出許可、撮影・掲載許可それぞれの件数もほぼ前年並みであった。普及啓発事業においては、各企画展ごとの関連イベントの他に「ゴールデンウィーク おもしろ昔たいけん」等のさまざまなイベントを行い、老若男女多くの方々が参加し、楽しんでいただいた。なお、ホームページのアクセス件数は36,895件となった。</p> <p>仙台市市民文化事業団の自主事業として始めた「れきみん秋まつり」は第12回を迎えた今回も仙台市教育委員会と共催で実施し、晴天にも恵まれたこともあって、3,700名を超える来場者を記録した。さらに、「東北文化の日」と関連して行った「仙台市市民文化事業団設立30周年記念あつまれ！ 仙台の伝統芸能」や、毎年6月に行っている「猿舞座のさるまわし」など、いずれの事業も市民の方々に定着し、大変好評である。また同じく自主事業として継続的に行っている復刻地図の頒布事業では、新たに作成した「仙台城下絵図(延宝9年(1681)～天和3年復刻版)」を初め、他の復刻地図も好評であった。今後もさらに当館の地域における役割と使命を自覚し、文化の拠点として市民の皆様方のニーズに応える施設となるよう職員一丸となって取り組んでいきたい。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の運営管理について、指定管理者は協定書等に基づき適切に実施している。また施設設置者である仙台市担当課と指定管理者および施設の担当者が、市の事業推進や指定管理業務の課題解消について適宜調整を行い、協力して業務遂行にあたっている。</p> <p>入館者数は概ね横ばい(昨年度比で増加)であり、展覧会や各種イベント等の開催回数・規模は従前の水準を維持している。その中でも、アンケートで示されたイベントごとの満足度が高い水準を維持している点が高く評価できる。施設内部では空間の利用方法が制約されてる中で、少人数活動や館外での活動を組み入れながら積極的に事業を展開している。市内外の小中学校による利用が多い点は施設の大きな特徴となっているが、資料館の活動について、広く市民や市外、県外の方々に定着してきている。なお、市内の大半の小学校が社会科学習の中で資料館を利用している点について、将来における歴史・文化継承の基礎となる理解の広がりや興味関心の喚起に大きく寄与しており、昔の遊び体験などをつづじて、次世代の担い手育成につなげていくという観点から重要である。また利用者アンケートによる結果からは、高い満足度の反面で、多くの来館者が初めて資料館を利用している点の特記される。一回の来館で高い満足を得ることができる展示内容であることから、今後いっそうの広報活動による来館誘導と再利用促進に注力することが効果的であると考えられる。</p> <p>資料収集に関しては、29年度も多く市民から寄贈があり、収蔵資料の充実が図られている。こうした点に、資料館の調査研究活動の蓄積が反映されているとともに、市民と良好な信頼関係を築いていることが見て取れる。長年の資料館の活動が着実に市民に浸透しており、今後の発展的活動につながっていく大切な部分であることを忘れてはならない。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課